

#NEWS	本学公式Webサイトをリニューアルしました！	01	#EVENT	2025年度卒業証書・学位記（学士） 及び学位記（博士）授与式	19
#ご挨拶	就任・新任・昇任のご挨拶	02	#EVENT	2026年度 入学宣誓式	19
#Feature Article	新校舎「飛翔館」を紹介します！ ＼学生編集委員特別企画／	10	#NEWS	人事	20
#COLUMN	事務局お仕事紹介	11	#NEWS	2026年度 試験日程について	22
#NEWS	生涯教育センターからのお知らせ	12	#COLUMN	LIBRARY NEWS	23
#REPORT	2026年度入学者選抜結果	13	#COLUMN	私の薦める、私の一冊	24
#COLUMN	十人十色 恩師の教え／助教 中西 聡	14	#COLUMN	学生相談室だより	26
#NEWS	京薬会だより	15	#NEWS	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程入学選考概要	27
#REPORT	2025年度授業評価集計結果の報告	16	#REPORT	令和8(2026)年度科学研究費助成事業 採択状況	28
#COLUMN	卒業生からのメッセージ	18	#REPORT	2025年度実践薬学コース実習報告発表会	29
			#REPORT	受賞・掲載	30
			#REPORT	京都薬科大学奨学寄附金芳名録	32

本学公式 Web サイトをリニューアルしました！

京都薬科大学公式Webサイトは2026年4月に全面リニューアルを行いました！大学情報や学生生活、進路支援、入試情報に加えて、本学をもっと知っていただくために「京都薬科大学をもっと知る」や在学生・卒業生インタビューを掲載した「京薬の人」など新たなコンテンツも追加しています。

京都薬科大学をもっと知る：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/more/>

京薬の人：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/more/reason.html>



本学公式Webサイト

この他にも新たに完成した飛翔館の特設ページや360度ビューも作成予定です。お楽しみに！





副学長

特任教員 さかえだ としゆき 栄田 敏之

この度、本年4月1日付で副学長を拝命いたしました。本学に着任後、進路支援部長、教務部長、研究科長として本学の教育研究に携わってきましたが、今年度から副学長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。甚だ微力ではございますが、平田新学長のご指導の下、本学の更なる発展に尽力する所存です。皆様のお力添え、どうぞよろしくお願いいたします。

本学は創立140周年を超える長い歴史と伝統を誇り、卓越した教育・研究の場として非常に多くの優れた人材を輩出してきました。「愛学躬行」を建学の精神とし、これを脈々と受け継いでまいりました。「愛学躬行」とは、自ら学び、考え、実践することであり、卒業生は、薬学が関連する分野のみならず、幅

広い分野で活躍されています。2006年より薬学教育は6年制に移行しましたが、移行前と変わることなく、優れた教育と研究の環境を提供し、卒業生の活躍は目を見張るものがあると感じています。

近未来の医療の態様についてはまだまだ不透明です。AI技術の進展により大きく変貌すると予想されます。しかしながら、それがどのようなものであっても、良質な医療の提供には、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れた医療人が必要と考えます。本学にて、分野横断的に統合的に科学的に思考できる力、高い倫理観をもって他者の多様性に対応し協働できる力、社会の多様性と変化に対応できる力の涵養に努めたいと思います。また、将来にわたって自己研鑽し続ける姿勢を醸成し、卒業後、リーダーシップを発揮できる人材の育成に尽力したいと思います。本学の学生の方々にはその素養があると確信しています。保証人の皆様、卒業生の皆様、法人関係者の皆様、さらには職員の皆様におかれましては、どうぞよろしくお願い指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



副学長 研究科長

教授 かとう しんいち 加藤 伸一

本年4月1日付けで、副学長兼研究科長を拝命いたしました。これまで、バイオサイエンス研究センター長、進路支援部長、図書館長として、教育・研究環境の整備および大学運営に携わる機会を頂いてまいりましたが、このたび、副学長兼研究科長という重責をお預かりすることとなり、身の引き締まる思いしております。甚だ微力ではございますが、本学のさらなる発展に寄与できますよう、誠心誠意、職務にあたる所存です。

本学の最も重要なブランドの一つが「研究の京薬」であります。これまで、その基盤となる研究および教育体制の整備が、ハード・ソフトの両面から進められてきました。今後、本学の研究力を一層向上させていくためには、学内の各分野、各センター、そしてラボがより密接に連携するとともに、学外の研究機関、医療機関、企業、さらには海外の大学や研究機関とも協調したシナジー研究基盤の

構築が重要であります。このような取り組みを着実に推し進めていきたいと考えております。

我が国における博士号取得者数は、諸外国と比較して依然として少なく、大学院、とりわけ博士課程への進学者数は減少傾向にあります。研究人材の育成・確保は喫緊の課題となっております。本学では、これまで博士課程の入学定員は概ね充足してきましたが、今後さらに博士課程への進学者を増やし、優れた博士人材を継続的に輩出していくためには、大学院教育の一層の充実が求められています。先端的研究を展開できる教育・研究環境のさらなる整備に加え、アカデミア、企業、医療現場、行政など、幅広い分野で先導的に活躍する博士人材のロールモデルを積極的に示し、大学院修了後のキャリアパスを明確に描くことのできる環境を整えてまいります。意欲ある学生が将来を見据えて挑戦できるよう、支援を行っていききたいと考えております。

全学的な視点と研究科の現場の双方を見据えつつ、本学の教育・研究の質的向上と持続的な発展に寄与できるよう、尽力してまいります。皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



教務部長

にしぐち こうし
教授 西口 工司

本年4月1日付で教務部長を拝命いたしました。平田新学長のご指導の下、甚だ微力ながら本学の発展に尽力する所存ですので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

本学では、建学の精神である「愛学躬行」、すなわち、自ら学び、考え、実践する、という精神に基づき、薬学のみならず多様な領域において活躍できる人材の育成を教育の目的として掲げ、6年制薬学教育への移行後も多方面に多くの人材を輩出してきました。薬局・病院で従事する薬剤師はもとより、大学や研究所で働く教員・研究者、製薬会社で活躍する研究者や医薬情報担当者、国家の政策を掌る官僚、さらには起業家など、多様な領域で多くの人材が活躍するのが

本学の伝統であり、特徴でもあります。

近年、6年制薬学教育を取り巻く環境が厳しさを増す中で、本学においても社会変革に対応した新たな展開が求められています。本学の教育と研究も時代と学問の変化に合わせて、さらに進化する必要があります。2022年度から始まりました第4期中期計画も最終年度を迎えます。「先端的研究の展開と教育への反映」の中で「科学的思考を育む教育基盤の強化」を掲げて参りましたが、その検証と抽出課題を基に、第5期中期計画の策定と実施に向けた取り組みを加速させる所存です。社会の多様化と変化に対応できる力を醸成するための本学独自の強固なカリキュラムとすべく、教職員皆様方のお力添えを頂きながら取り組んでいく所存です。

在学生及び保証人の皆様、卒業生の皆様、法人関係者の皆様、さらには教育職員及び事務職員の皆様におかれましては、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



学生部長

ふじむろ まさひろ
教授 藤室 雅弘

本年4月1日付で学生部長を拝命いたしました。学生部委員会ならびに学生課の教職員の皆様とともに、本学に学ぶすべての学生が、充実した学生生活を送り、将来に向けた確かな歩みを進めることができるよう、微力ながら努めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学の学生の皆さんは、薬学を基盤として医療を支える専門職としての道を歩んでいます。その道は決して一様ではなく、それぞれが異なる環境や価値観の中で、自らの役割を見つけていくことになるでしょう。そのために重要なのは、単に知識や技能を身につけることにとどまらず、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する力を養うことであると考えています。

研究の現場に身を置く者として日々感じるのは、物事には必ずしも一つの正解があるとは限らず、むしろ問いを持ち続け、その問いに向き合う過程そのものに価値があるということです。大学での学びも同様に、与えられた知識を受け取るだけでなく、「なぜそうなのか」「他の見方はないのか」と自分自身に問いを立てる姿勢が、専門性ととも思考力を深めていくと考えています。

しかしながら、学生生活は常に順調であるとは限りません。勉学や人間関係などにおいて、不安や悩みを抱えることは決して特別なことではなく、多くの学生が

経験するものです。

本学には、学生生活に関する悩みや課題に対して支援するさまざまな体制が整えられています。学生課や学生相談室をはじめとするこれらの窓口は、皆さんが安心して学びに専念するための重要な支えです。臨床心理士が常駐し専門的な支援を行っていることも、本学の大きな特徴の一つです。困ったときには一人で抱え込まず、これら大学の支援を活用してほしいと思います。

また、専門家として社会に関わるにあたり、他者との関係の中で自己を位置づける力も不可欠です。大学という場は、多様な価値観や背景を持つ人々と出会い、対話し、時には葛藤しながら成長する貴重な機会を提供します。自分の考えを適切に伝えること、また他者の言葉に耳を傾けることは容易ではありませんが、その経験の積み重ねこそが、人間性の涵養につながるものと思います。

大学で過ごす時間は、専門知識の習得にとどまらず、自身の在り方や将来の方向性を見つめる重要な期間でもあります。その過程において、試行錯誤や迷いが生じることがむしろ自然なことです。一つひとつの経験を大切にしながら、自身の成長へとつなげていってください。

学生の皆さんが、本学での学びと経験を通じて大きく成長し、社会において信頼される専門家として活躍されることを心より願っております。その実現に向けて、教職員一同で支援してまいります。

ご関係の皆様におかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



進路支援部長

たかた かずゆき
教授 高田 和幸

2026年4月1日付で進路支援部長を拝命いたしました。学生の皆さんの希望する進路の実現に向けて、進路支援課ならびに進路支援部委員会の教職員の皆さんと力を合わせ、その役目を誠実に果たしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

本学卒業生の進路は、企業・病院・薬局への就職がそれぞれ約3割を占め、大学院進学や行政職など多彩であることが私立薬学部の特徴です。企業就職先も製薬・化学・食品にとどまらず、商社やコンサルティングなど幅広く、薬学の専門性を活かせるフィールドは皆さんが思う以上に広いものです。

進路選択にあたって、ぜひ意識していただきたいのがロールモデルを見つけることです。「こんな研究者／薬剤師になりたい」「このフィールドで活躍したい」という具体的な像を

持つことは、進路選択の道標になるだけでなく、今の学修への意欲にも直結します。本学には様々な分野で活躍する卒業生が数多くいます。セミナーや説明会で先輩の生き方に触れ、自分の将来像を描くヒントを積極的に探してください。

就職することがゴールではありません。その先のキャリアで自分がどのように社会に貢献できるのか、そのために今何を学ぶべきかを考えてこそ、今なすべきことが見えてきます。変化の速い社会で求められるのは、課題を発見し、考え、行動する力です。大学での学修をその力を磨く機会として最大限に活かしてください。

進路支援課では、最新の就職市場情報の収集・分析に加え、卒業生や医療・産業界の第一線で活躍する方々を招いたセミナー、個別相談、エントリーシート・面接対策など多彩なサポートを提供しています。ぜひ積極的に活用してください。皆さんが真に納得のいく進路を実現できるよう、進路支援部一同、全力でサポートしてまいります。

新任のご挨拶



病態薬科学系
臨床薬理学分野

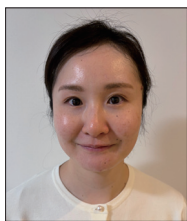
さとう ひろみ
教授 佐藤 洋美

2026年4月1日付で臨床薬理学分野の教授に着任致しました。この度、ご縁を得て京都薬科大学に着任できたことを大変光栄に存じます。

2008年に千葉大学で学位を取得後、同大学院薬学研究院にて助教、講師、准教授として薬理学、薬物動態学、臨床薬理学関連の研究に従事してまいりました。研究の基盤は、矢野友啓先生（現・東洋大学教授）のもとで取

り組んだ、がん病態下の細胞間コミュニケーションの変容機構の解明と新規治療標的の探索です。一方で、実臨床における個体差の重要性に着目し、その要因の体系化を通じて個別化医療への貢献を志向しています。

今後は、私の基礎基盤と、学部時代の師匠・上野光一先生（千葉大学名誉教授）が開拓された性差医学的視点、および千葉大学在籍中の上司・樋坂章博先生（現・PMDA M&Sエキスパート）のファーマコメト릭ス手法を継承し、基礎と臨床を橋渡しする研究を推進してまいります。何卒宜しくお願い申し上げます。



生命薬科学系
微生物・感染制御学分野

いしまる はなこ
講師 石丸 華子

このたび、2026年4月1日付で、微生物・感染制御学分野の講師に着任いたしました。2017年3月に本学を卒業後、名古屋大学医学部附属病院にて薬剤師レジデントとして1年間勤務し、薬剤師業務に従事する傍ら、ヘルペスウイルス感染症に対する抗ウイルス薬の適正使用に関する臨床研究に取り組みました。その後、本学大学院薬学専攻博士課程に進学し、細胞生

物学分野の藤室先生のもと、ヘルペスウイルスに対する抗ウイルス薬探索研究に従事しました。2022年3月に博士(薬学)の学位を取得後、神戸大学大学院医学研究科臨床ウイルス学分野にて新型コロナウイルス研究に取り組み、医学部の強みを生かし、臨床検体から新規中和抗体を探索し同定しました。

今後は細菌学も含めた感染症研究に取り組み、これまで培ってきた経験を生かしてファーマシスト・サイエンティストの育成に尽力し、本学の発展に貢献してまいります。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



医療薬科学系
臨床薬学分野

もぎ けいすけ
助教 茂木 啓佑

2026年4月1日付で臨床薬学分野の助教を拝命いたしました。私は2022年に本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学専攻博士課程に進学し、衛生化学分野(長澤一樹教授)にて、抗がん剤誘発性有害事象(味覚障害、うつ病)の発症機構に関する研究に取り組んでまいりました。2026年3月に博士課程を修了し、博士(薬学)の学位を取得いたしました。

この度、本学において臨床薬学分野の教員として教育・研究に携わる機会を賜りましたことは誠に光栄であり、その責務の重大さに身の引き締まる思いでございます。今後は、医薬品の有効性および安全性の向上を目指した適正使用の推進、すなわち「育薬」の精神を重んじ、臨床に根ざした教育・研究活動に努めてまいります。また、臨床現場と基礎研究の双方を意識し、科学的根拠に基づいて医療の発展に寄与し得る薬剤師の育成に取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



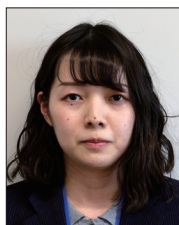
統合薬科学研究施設
シナジーラボ

はらだ こうき
助教 原田 考輝

2026年4月1日付で、シナジーラボの助教として着任いたしました。私は2022年に本学薬学部を卒業後、同大学院薬学専攻博士課程に進学し、高田和幸教授のもと人工多能性幹（iPS）細胞などを用いた脳の免疫細胞であるミクログリアの発生機序や、ダウン症候群におけるミクログリアの発生異常についての研究に取り組み、2026年3月に博士（薬学）の学位を取得いたしました。

今後は、ヒトiPS細胞由来ミクログリアと脳を模した三次元培養モデルを活用し、自閉スペクトラム症をはじめとする神経発達症の病態解明に取り組んでまいります。また、博士課程を通じて培ったこれらの技術を学内外の先生方と共有し、共同研究を通じて本学の発展に貢献できればと考えております。

最後に、学部生時代からお世話になった本学にて教育・研究に携わることになりました責任を胸に、教職員の皆様からご指導を賜りながら精進してまいります。



事務局
研究推進課

たまがき めぐみ
事務員 玉垣 萌

2026年4月1日付で研究推進課に配属となりました。この場をお借りして皆様へご挨拶申し上げます。

前職では繊維系化学メーカーにて、糸・生地の開発をはじめ、補助金事業等の研究開発に携わってまいりました。本学においては、これまでの経験を活かしつつも、薬学や大学ならではの研究環境について学びながら、学生・教職員の皆様が円滑に研究に取り組める環境づくりに貢献できればと考えております。

皆様に温かく迎えていただき、おかげさまで日々の業務にも少しずつ慣れてまいりました。多くの方々と関わる中で、研究活動を支える事務の重要性を改めて感じております。

休日は、愛猫・愛犬と過ごす時間を大切にしつつ、テレビゲームやスポーツを楽しんだり、好きなバンドのライブに足を運んだり、日々の英気を養っております。

新たな職場での出会いを大切に、皆様のお力になれるよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

昇任のご挨拶



医療薬科学系
薬物動態学分野

いとう ゆかこ
教授 伊藤 由佳子

2026年4月1日付で、医療薬科学系薬物動態学分野の教授を拝命いたしました。

私は1995年に本学大学院博士前期（修士）課程を修了後、同年、本学薬物動態学教室助手として着任し、高田寛治教授のご指導のもと、薬物動態解析ソフトウェアの開発に従事してまいりました。2003年には本学にて博士（薬学）の学位を取得いたしました。その後、出産・育児期間を

経て2009年に本学へ復帰し、2011年より講師として、薬物動態学を基盤とした抗癌剤治療の適正管理に関する研究を推進するとともに、学部・大学院教育に携わってまいりました。着任後は、これまで取り組んでまいりました癌薬物療法における有効性と副作用の適切な管理について、薬物動態学的観点から、生体バイオマーカーを導入した数理モデルに基づく薬剤管理の実用化を目指し、医療現場への更なる貢献を追求してまいり所存です。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター

いまにし たかし
教授 今西 孝至

この度、2026年4月1日付で臨床薬学教育研究センター教授を拝命いたしました。私は1994年に近畿大学薬学部を卒業後、同大学大学院薬学研究科博士前期課程を修了し、病院薬剤師として臨床経験を積みました。その後、2006年に同大学大学院薬学研究科博士後期課程へ進学し博士（薬学）を取得、その後は薬局薬剤師としてOTC業務や在宅医療を含む地域医療に従事しておりました。その際、薬局での患者急変時対応の重要性を再認識し、救

急救命士養成学校に入学、救急救命士を取得いたしました。ちょうどその頃、当時センター長であった高山明教授より6年制薬学教育におけるフィジカルアセスメント教育に尽力してほしいとお声掛けをいただき、2010年より同センター講師として着任し、現在に至ります。

現在、薬剤師業務は「対物業務から対人業務へ」と大きく転換しつつあり、医薬品の適正使用に加えて、患者や来局者の身体所見から状態を適切に把握する能力を兼ね備えた薬剤師の育成が求められています。私はこのような社会から必要とされる「質の高い薬剤師」の育成に貢献したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



事務局長

もり ようすけ
森 洋介

4月1日付で、事務局長を拝命いたしました。微力ではございますが、本学の更なる発展のため尽力させていただきたいと考えております。

少子化の急速な進行や社会構造の変化を背景に、本学を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした困難な状況を乗り切るためには、教育・研究活動を支える事務局機能の一層の強化と専門性の向

上が不可欠であると考えています。

事務局として、AIをはじめとするデジタル技術や学内外の様々な知見を積極的に活用し、大学運営業務の効率化と高度化を推進することで、職員がより教育・研究活動ならびに支援に注力できる環境を整えてまいります。加えて、学生の皆さんにが学びやすいキャンパス環境の整備にも取り組んでいきたいと考えています。

皆さまとともに力を合わせ、本学のさらなる発展を実現したいと考えております。今後ともご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



事務局次長(法人部門)
経理財務課長

こんどう のぶこ
近藤 伸子

2026年4月1日付で事務局次長(経理財務課長兼務)を拝命し、法人部門(総務企画課、経理財務課、施設課、情報システム課、研究推進課)を担当することとなりました。

昨今の大学を取り巻く環境は、18歳人口の減少による学生数のピークアウトに加え、諸物価の高騰など、これまでにない厳しさを増しており、大学経営にも深刻な影響を及ぼしています。

このような環境下にあって、学生の皆さまが安心して本学での学修に取り組める

環境整備を着実に進めるとともに、教育・研究活動のさらなる充実を図り、本学のブランド力向上につなげていきたいと考えております。

これらの取り組みを持続的に実践していくためには、盤石な財政基盤の確立が不可欠となります。インフレの進行により資産価値の目減りの可能性も見据えつつ、寄附事業の拡大や、資産運用のさらなる展開などに取り組み、大学運営基盤の強化に努めてまいります。

微力ではございますが、新たな役職のもとで本学の発展に尽力してまいりますので、今後とも皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事務局次長(教学支援部門)
学生課長

たかの えり
高野 江里

2026年4月1日付で事務局教学支援部門次長(学生課長兼務)を拝命し、入試課・教務課・学生課・進路支援課の4部門を担当することとなりました。身に余る重責に、あらためて身の引き締まる思いでございます。

近年、大学を取り巻く環境は厳しさを増し、少子化も想定を上回る速度で進ん

でおります。そのような中でも本学が優れた薬学人材を輩出し、これからも選ばれる薬学部であり続けるためには、本学の魅力向上と学生の成長支援をより一層高めていく必要があると考えております。

教学支援部門として関係各課の連携をこれまで以上に深め、入試・広報から学修支援、学生生活、進路支援まで、学生・受験生の皆さまにとって魅力と活力ある学びの場となるよう尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



事務局
入試課長

たにがき あけみ
谷垣 朱美

2026年4月1日付で入試課長を拝命いたしました。私は大学卒業後に民間企業を経て、2010年に本学に入職し、これまで教務課、進路支援課、企画・広報課、庶務課で学生対応から大学広報、庶務業務に至るまで幅広く経験を積んでまいりました。

18歳人口の減少に加えて薬学志願者の減少など、本学を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、その中で入試広報が果たすべき役割の重要性和責任の重さを

改めて強く感じております。これまでに培った大学広報としての視点を生かしつつ、新たな取り組みにも積極的にチャレンジしながら、本学の魅力を的確かつ効果的に発信する入試広報に取り組んでいきたいと考えております。

また、入試業務は特定の部署だけで完結するものではなく、学内のさまざまな部門との連携が不可欠です。広い視野を持って部署の垣根を越えた協働を促進し、組織として一体感のある体制づくりに尽力してまいります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新校舎「飛翔館」を紹介します！

／学生編集委員特別企画／



こんにちは。KPU_{NEWS}編集委員です。今回は、2026年4月から供用が開始された飛翔館と、その完成に尽力された施設課の方々取材しました。施設課のお仕事紹介に加え、実際にお話を伺わなければ分らなかった飛翔館の“こだわり”や“遊び心”を、いくつかピックアップして紹介していきます。

飛翔館について

まず、飛翔館の概要についてご紹介します。飛翔館は2026年2月に完成し、3月の竣工式を経て、4月から供用が開始されました。新校舎の名称は、2025年4月より開始された応募の中から決定され、本学での研究や学びを通じて未来で活躍してほしいという期待が込められています。建物は4階建てで、1階にはラーニングcommons、エントランスホール、キャンパスプロムナード、教員室、2階には実習室、3階にはシナジー研究室やリサーチcommons、4階にはH41講義室が設けられています。（詳しくは、2026年4月発行のKPU_{NEWS} p8.9をご参照ください。）

飛翔館のこだわり① <ラーニングcommons>

まずは、ラーニングcommonsです。ここには、様々な形や色の椅子や机が設置されています。これは、視覚的にワクワクするため、あえて多様なデザインを取り入れているそうです。また、実用的な面でも工夫が施されています。机は、学生が勉強しやすいように丸形だけでなく四角形のものも採用されており、一部のソファや机に付いているキャスターは、使用用途によってレイアウトを自由に変えることができます。さらに、パソコンやスマホの画面をプロジェクターでホワイトボードに投影し、電子ペンで書き込みができる点にも魅力を感じました。話し合いながら学習できる環境が整っており、活用の幅は広いと思います。



学生が使いやすい空間になっています



ホワイトボードには電子ペンで書き込み可能！

飛翔館のこだわり② <大講義室（H41講義室）>

この講義室は、T31講義室のような大規模講義室をもう一つ設けたいという思いから設計されたそうです。実際には、T31より縦に一段分だけ広がっています。T31講義室との違いとして、各机にコンセントとUSB給電ポートが備えられている点、長時間座っても疲れにくいクッション性の高い椅子が採用されている点、さらに後方の席からも黒板が見えやすいようにモニターが一段分多く設置されている点などが挙げられます。このように学生の意見も反映されており、より使いやすい講義室へと進化していました。同時配信システムなども備えており、講義だけでなくイベントやセミナーなどにも活用できるとのことでした。



コンセントとUSB給電ポートもあります



学生からの意見をもとにクッション性の高い座面を採用！



全ての座席から見えやすいようにモニターが設置されています

飛翔館のこだわり③ <装飾>

最後に、飛翔館の装飾についてご紹介します。ラーニングcommonsやリサーチcommonsの入り口、ガラス壁にはDNAの二重らせん構造を思わせるデザインが施されています。また、お手洗いや各施設の標識は化学構造の6員環をモチーフとして角張ったデザインが使用されています。さらに、H41講義室横の共有スペースの壁には、本学の校章であるケシの主要成分の化学構造をもとにしたガラスオブジェが飾られています。H41講義室の椅子にもスクールカラーであるえんじ色がランダムに取り入れられており、館内の随所に本学らしさが感じられる工夫がちりばめられていました。



ラーニングcommons入口



お手洗いの標識



4F ホールのオブジェ

さいごに

このように、飛翔館には学生目線の“こだわり”や“遊び心”が数多く詰まっています。施設課の方々に紹介をしていただかなければ気づかなかった部分も多くあり、多くの魅力に触れることができました。ぜひ皆さんも実際に足を運び、その魅力を体感してみてください。

事務局お仕事紹介

第9弾 施設課

施設課は愛学館2階の奥にあり、6名の職員で構成されています。主な業務は学校の設備の管理やメンテナンスであり、学内の清掃・ゴミの処理業務の委託なども担っています。さらに、内線工事や雪かきや木の剪定、ハチの駆除の委託、研究室の化学物質の管理などその業務は多岐にわたります。法律や京都府市の条例の範囲内でできるだけ学生と職員みんなが使いやすい施設にするため日々業務に取り組んでいます。さらに、年々厳しさを増す酷暑に直面する中で、CO2排出量・エネルギー使用量の年間1%以上削減を達成するために、可能な対策の一つひとつ着実に進めています。このように施設課は、学生生活の「当たり前」を支える裏方としての役割を果たすと共に、環境に優しい大学づくりに取り組んでいます。

今回の飛翔館の建設においては、中核的な役割を担っており、見学を通して設計・運用の随所に工夫が反映されていると感じました。飛翔館の建設の話は創立130周年記念館が建設された10年以上前から上がっており、構想を具体的な設計へ落とし込む過程には多くの調整が必要だったとのこと。何度も計画を練り直した結果、現在の形に至ったそうです。例えば、現在は4階にあるH41の大講義室は当初は地下に作る

予定でした。また、講義室の椅子の配色やコンセントの位置は学生自治会の人と話し合い、シミュレーションを重ねて決定しました。さらに、飛翔館の建設には各種申請が必要であり、建物の高さ制限や環境、騒音など、様々な法令への対応が求められます。そのため、漏れなく期限内に申請を行うことも重要な業務の一つであり、様々な制約の中で新校舎を実現するにあたり、私たちの目には見えない多くの苦労があったのだと思います。

最後に学生へのメッセージを頂きました。

「ゴミの分別の徹底とともに、環境に配慮した行動を一人ひとりが積極的に意識し、率先して取り組んでほしい」とのことです。今日からできることはたくさんあります。どうか小さなことからでも行動に移してみてください。

少しは、施設課について知ることが出来たでしょうか。私たちがほとんど関わる機会がない部署は他にもあるので、今後も取材していきます。ではまた次回。



バックナンバー

第1弾 企画・広報課／No.212 (2023年1月号)

第4弾 教務課・学生課／No.216 (2024年1月号)

第7弾 研究産学連携推進室／No.221 (2025年4月号)

第2弾 進路支援課／No.213 (2023年4月号)

第5弾 入試課／No.218 (2024年7月号)

第8弾 会計課／No.224 (2026年1月号)

第3弾 情報管理推進室／No.214 (2023年7月号)

第6弾 実務・生涯教育課／No.219 (2024年10月号)

掲載されているKPU_{NEWS}は本学公式Webサイト (https://www.kyoto-phu.ac.jp/journal/kpu_news.html) よりご覧ください。

「現在申込受付中」の研修会です。皆様のご参加をお待ちしています。

◆2026年度アカデミックスキル基礎講座<基礎1>

<基礎1-1 症例報告の書き方> <基礎1-2 情報検索と利活用>

◆2026年度アカデミックスキル基礎講座<基礎2>

<基礎2-1 データのまとめ方> <基礎2-2 データの比較>

新規開講
講座あり！

スキルアップの基盤となるアカデミックスキルの基本を学ぶ講座です。

2026年度は情報検索とデータ活用の講座を追加し、2日、全4講座のラインアップで開講します。

フリー討論で具体的な相談も可能です。各自、ノートPCをお持ちいただきます。

※薬剤師限定の講座です。

<基礎1-1 症例報告の書き方>

<基礎1-2 情報検索と利活用> **NEW!**

*日程：2026年9月6日(日)

基礎1-1:9:30～12:50／基礎1-2:13:00～16:30

*場所：京都薬科大学愛学館3階A32講義室

*定員：各50名(薬剤師限定) *参加費：終日3,500円、半日2,000円

*認定単位：G24 終日4単位、半日2単位 *申込受付期間：2026年7月8日(水)～8月24日(月)

9/6(日) <基礎1>	<基礎1-1> 症例報告の書き方 9:30～12:50	<講義> 文章の書き方 <演習> 症例報告作成 相談・意見交換 ※軽食あり
	休憩	
	<基礎1-2> 情報検索と利活用 13:00～16:30	<演習> 情報検索スキル入門 <演習> 情報活用スキル入門 相談・意見交換

<基礎2-1 データのまとめ方> **NEW!**

<基礎2-2 データの比較> **NEW!**

*日程：2026年9月27日(日)

基礎2-1:9:30～12:50／基礎2-2:13:00～16:30

*場所：京都薬科大学愛学館3階A32講義室

*定員：各50名(薬剤師限定)

*参加費：終日3,500円、半日2,000円 *認定単位：G24 終日4単位、半日2単位

*申込受付期間：2026年7月8日(水)～9月14日(月)

9/27(日) <基礎2>	<基礎2-1> データのまとめ方 9:30～12:50	<講義> データの取扱い <演習> データ作成 相談・意見交換 ※軽食あり
	休憩	
	<基礎2-2> データの比較 13:00～16:30	<演習> データの比較 (1) <演習> データの比較 (2) 相談・意見交換

2026年度eラーニング講座

2026年度卒後教育講座の対面講義もオンデマンドで受講できます。

配信期間中
いつでも申込可能です

*配信期間：2027年2月28日(日)まで

*参加費：①全視聴コース 30,500円、②当年度コース 22,500円、③卒後コース 20,500円、
④漢方コース 24,500円

*認定単位：G24 1単位／コンテンツ

*申込受付期間：2027年2月25日(木)まで

*配信コンテンツは、生涯教育センターwebサイトのeラーニング講座ページからご確認ください。

<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/program/index.php?pid=168>

● 本学の学生および職員は、無料で受講できます。受講希望者は、下記問合せ先までメールにてご連絡ください。(注：アカデミックスキル基礎講座は薬剤師限定)

● 申込方法 生涯教育センターWebサイトよりお申込みください。

<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

● 問合せ先

京都薬科大学 事務局 教務課

*E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

*TEL：075-595-4613

*FAX：075-595-4792



生涯教育センター
問い合わせフォーム



<基礎1>
アカデミックスキル基礎講座
申込みページ



<基礎2>
アカデミックスキル基礎講座
申込みページ



eラーニング講座
申し込みページ

8/29（土）Lehmannプログラム 症例・データ検討会開催のお知らせ

本学が開講するLehmann（レーマン）プログラムは、現役薬剤師が専門・認定薬剤師資格の取得や症例報告や臨床研究の作成・発表を通じて専門性を高め、論文として社会に貢献することを支援する履修証明プログラムです。本プログラムは、将来の薬学領域を担うリーダーの育成を目的としています。



この度、2026年8月29日（土）に、Lehmannプログラム履修生による中間報告として、症例・データ検討会を開催いたします。

本検討会は学生の皆さんの聴講も可能です！ 将来、病院や薬局などでの勤務を考えている方や、本プログラムに関心のある方、将来薬剤師として活躍を目指す方は、ぜひご参加ください。聴講をご希望の方は、下記のformsまたは連絡先よりお申込みください。なお、会場は入退場自由です。

【日時】

2026年8月29日（土） 9:10-16:45（予定） ※途中参加・途中退室可能

【会場】

愛学館3階 A32講義室

【参加対象者】

学部生、院生、教員、その他医療関係者等



【聴講申し込み】

生涯教育センター（事務局教務課）

* E-mail : s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

* TEL : 075-595-4613

REPORT

2026年度入学者選抜結果

／入試課

2026年度入学者選抜結果について、志願者数および合格者数は表の通りです。

2026年度の志願者数は2,011名、入学者数は376名となりました。

	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	実質倍率
学校推薦型選抜 （指定校制）	50 名	57 名	57 名	57 名	1.0
学校推薦型選抜 （一般公募制）	90 名	243 名	96 名	96 名	2.5
一般選抜 共通テスト利用前期	45 名	701 名	336 名	81 名	2.1
一般選抜 前期（3教科型）	150 名	739 名	317 名	113 名	2.2
一般選抜 後期（2教科型）	20 名	252 名	43 名	29 名	4.5
一般選抜 共通テスト利用後期	5 名	19 名	5 名	0 名	3.8

十人十色

KPUnewsでは、学生・職員の趣味や活動などを「十人十色」と題して幅広く紹介しています。学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

恩師の教え

バイオサイエンス研究センター 助手 なかにし さとし
中西 聡

私は中学1年で剣道を始め、今年で40年になります。故・川添哲夫先生より剣道の手ほどきを受けました。先生は上段の構えをとられ、全日本剣道選手権大会優勝2回、準優勝1回、第3位3回、さらに世界剣道選手権大会団体優勝という輝かしい経歴をお持ちでした。



故・川添哲夫先生
(第19回全日本剣道選手権大会
で初出場初優勝した時)

全日本選手権では、ただ一度の振り下ろしで一本を決めて勝利したという逸話もあり、「耐え忍び一撃にかける」剣道を体現された方でした。毎日、朝夕2回の稽古では必ず面をつけ、生徒と真剣に向き合い続けておられました。

入部して間もなく、先生から次のように教えられました。

「私は二流の選手だったから、人の二倍稽古して一流に勝てた。今、君たちは四流・五流なのだから、四倍・五倍の稽古をなさい。そうすれば自信がつく。試合ではどんな状況でも決してあきらめてはいけない。1秒あれば逆転できる。剣道は一人では強くなれない。人を大事になさい。」

中高一貫校でしたが、道場に入れば上下関係はなく、初心者でも同じ稽古メニューをこなす方針でした。当初は稽古についていけず不安もありましたが、先輩や同期に励まされ、1年後には何とか食らいつけるようになりました。この1年間で、どんな稽古にも耐える体力と基礎を養うことができました。

「打って反省、打たれて感謝」という言葉があります。打突の成否ではなく、正しい姿勢と心で打てたかを振り返ること、そして打たれた際には自分の隙や癖を教えてくれた相手に感謝し、素直に学ぶ姿勢を意味します。剣道の試合で勝者がガッツポーズを禁じられているのも、この精神に基づくものです。日本刀に由来する武道として、互いに覚悟を持って対峙する以上、相手への敬意を失ってはならないという教えです。

平成元年に剣道初段を拝受し、平成も最後の31年に剣道七段を拝受しました。毎年5月には京都市岡崎の旧武徳殿で開催される全日本剣道演武大会に出場させていただいております。気がつけば、川添先生よりも長く剣道を続けています。現在は道場で子供たちの指導にも携わり、他の先生方と相談しながら、継続できる稽古内容を模索しています。

剣道は、目で見て頭で理解したことを身体で表現できるようになるまで、繰り返しの稽古が不可欠です。その多くは単調な基本稽古ですが、試合では緊張の中で思うようにいかず、失敗を重ねることも少なくありません。それでもあきらめずに続け、技が自然に出るようになったときには、大きな達成感と自信を得ることができます。この積み重ねこそが、剣道を続ける原動力であると考えています。



剣道7段審査会会場にて



全日本剣道演武大会

1 卒業証書・学位授与式並びに卒業祝賀会／京薬会歓迎会

2026年3月14日(土)10時より、130周年記念館にて卒業証書・学位授与式が挙行政され、木曾理事長、赤路学長に続いて、京薬会 平松会長が祝辞を述べられました。13時から、同じく130周年記念館にて、京薬会主催、教育後援会協賛の『卒業祝賀会／京薬会歓迎会』を開催いたしました。京薬会役員による進行のもと、分野・クラブごとにかわるがわる壇上に上がり、記念写真の撮影を楽しみつつ、会場では賑やかな祝宴が繰り広げられました。学生役員として活動した院修了生(博士課程)に京薬会平松会長より感謝状が贈呈され、新たに年次代議員に就任した2名の紹介もありました。

この祝宴は、卒業された皆さんへの祝賀会であると同時に京薬会正会員として迎える歓迎会の場でもあります。若く新鮮な感覚で、今後の京薬会と一緒に盛り上げてくださることを期待します。

また躬行館食堂では、大学主催の『卒後30年・50年の記念祝賀会』も同時開催され、久しぶりの母校で、多くの卒業生が旧交を温め、想い出話に花が咲く良い時間となりました。



『卒業祝賀会／京薬会歓迎会』会場風景



年次代議員に就任されたお二人

2 愛学躬行歴史資料室

★オープンデーの実施

毎月20日前後をオープンデーとして歴史資料室を開放しています。歴史資料室 鈴木前室長の解説をご希望の場合は、京薬会に予約してください。

★女子部設置120周年のミニ展示

京薬における女子生徒・女子学生の歴史を紹介する予定です。

★「京都薬科大学の歴史Q & A」を作成

「京都薬科大学の歴史」をQ&A形式で作成し、随時加筆修正しています。4月の基礎演習での見学時にも配布しました。ご希望の方は京薬会に申請し、京薬142年の歴史を理解するためにもお役立てください。

★『愛学躬行歴史資料室レター』No.9、No.10の刊行

いずれも京薬以外の研究者のご寄稿によるものです。歴史資料室所蔵の『薬窓誌』『薬業時論』などを閲覧され、資料として活用されました。レターはバックナンバーを含め、いずれも右の二次元コードからダウンロードできます。



★卒業生から歴史資料室への寄贈

1932年(昭和7年)の卒業アルバムを卒業生の方から寄贈いただきました。

★京都薬科大学80周年のネガフィルムのデジタル化

1964年(昭和39年)に刊行された『京都薬科大学八十年史』の編纂過程で資料を撮影していたネガフィルムが劣化、カールし始めていましたので、大学の協力により、専門業者にデジタル化を依頼しました。

現在、それらを整理していますが、今では見るできない画像もあり、貴重なものであることを再確認しました。

2025年度 授業評価集計結果の報告

／授業評価委員会

本学では学生自身が授業における学びの理解度を図るために、また教員が授業改善を行うために前期と後期の年2回、学生による授業評価を実施しています。

授業評価の方法は「授業アンケート」としてFormsを利用して各講義科目の担当教員（専任教員及び非常勤講師）ごとに実施しています。

アンケート実施後、集計結果を受けて学生の意見に対するフィードバックのため、教員は「リフレクション・ペーパー」を作成しています。このリフレクション・ペーパーは大学のポータルサイト「manaba」に掲載して学生に公開し、また冊子体にして図書館で閲覧ができるようにしています。これによって今後の授業改善が積極的に進み、学生及び教員にとって有意義な授業が実施されることを期待しています。

2025年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。

「学生自身の授業で学ぶ態度」と、「教員の授業に関する項目」について別々に評価をしました。

◇学生自身の授業で学ぶ態度

5段階評価で前期・後期ともにすべての設問が4.1以上と高水準になりました。

Q4の興味・関心の喚起が最も高く、教育内容が学生の学習意欲を刺激していると示唆されます。

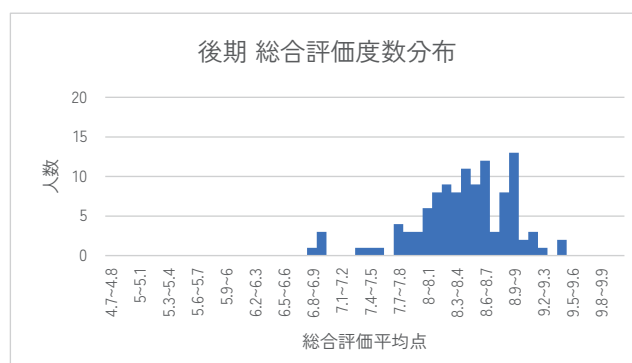
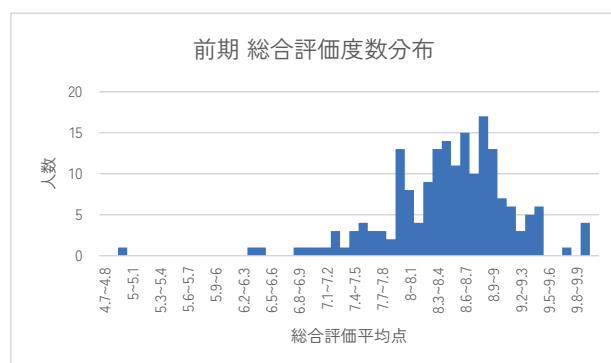
	設問	前期評価	後期評価
Q1	予習・復習などの授業外学習を十分に行い、この授業に対して意欲的に取り組んだ。	4.18	4.13
Q2	授業の到達目標を達成できた。	4.20	4.14
Q3	授業で学んだことを、他の授業の内容（今までに学んできたこと、他の科目など）と関連付けながら理解することができた。	4.22	4.18
Q4	授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからもより深く学びたいと思った。	4.29	4.22

(5段階評価)

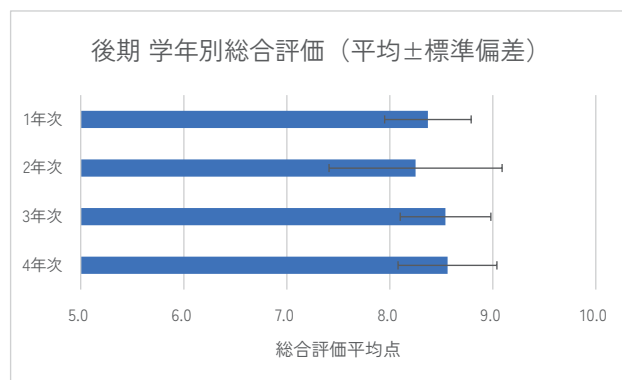
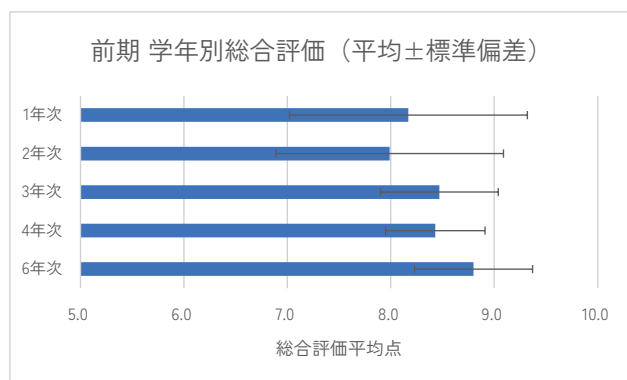
◇教員の授業に関する項目

以下の図に示すように、総合評価の平均点は広く分布したものの、学年間及び職位間で大きな差異はありませんでした。なお、アンケートの回答率は、低学年ほど高くなる傾向でした。

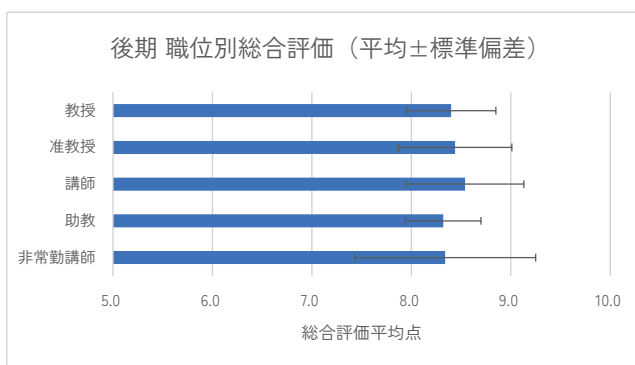
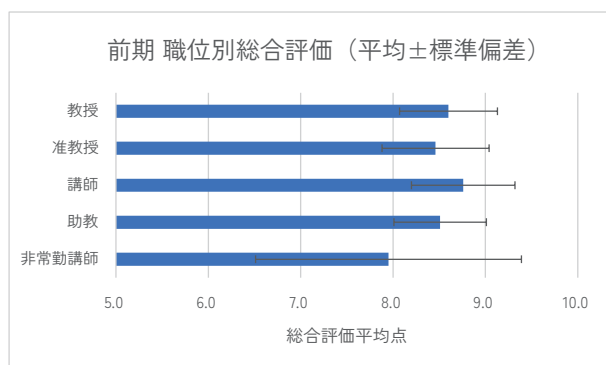
1) 総合評価の分布



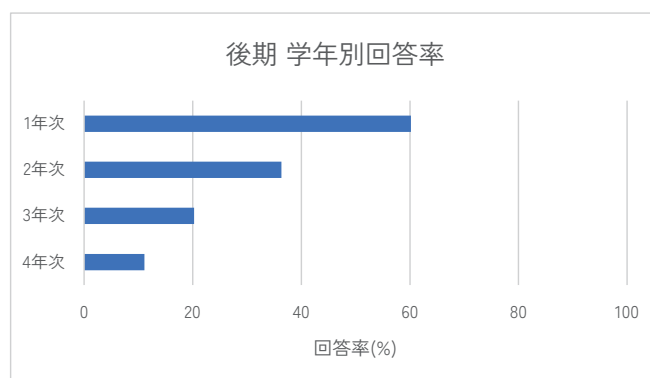
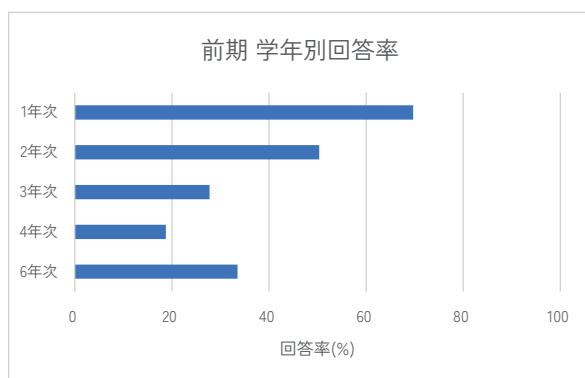
2) 学年別の総合評価平均点



3) 職位別の総合評価平均点



4) 学年別のアンケート回答率



最後に、授業アンケートに協力頂いた学生みなさんに感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指します。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答へのご協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。

人とのつながりの可能性

私は、6年制薬学部7期生として京薬で学びました。京薬を志したきっかけは、幼いころから喘息を患っていたことです。薬について深く知り、同じように苦しむ人の役に立ちたい、その思いが原点でした。

在学中は陸上競技部に所属し、部室やアパートで先輩、同期、後輩と交わした議論は、今でも強く印象に残っています。学問に限らず、進路や将来像について語り合った時間は、自分の考えを広げる大きなきっかけとなりました。研究室選択では希望が叶わない経験もしましたが、公衆衛生学分野の先輩が新たな進路を示してくれました。研究では、祖父が糖尿病とがんを患っていた経験から、発がん性物質の探索研究を選びました。思うような結果が得られないことも多く、学会発表の直前まで試行錯誤を重ねる日々でしたが、指導教員の渡辺徹志教授や松本崇宏准教授の厳しくも温かいご指導に支えられ、乗り越えることができました。

博士課程への進学に悩んだ際には、さまざまな意見があり、自分自身でも大いに悩みました。そのような中で、家族や部活動OBから温かい励ましと応援をいただいたことは進学を決断する大きな後押しとなりました。自分一人では迷い続けていたかもしれない選択も、人とのつながりによって前に進むことができたのだと感じています。

振り返ると、大学とは単に知識を得る場ではなく、立場や価値観の異なる人々がつながり、互いに考えをぶつけ合う中で、新たな可能性を見出す場であると実感しています。

現在は教育・研究・地域貢献に携わっています。その中で感じるのは、人と向き合うことの難しさと重要性です。地域貢献は知識だけでは解決できないものも多く、対話を重ねて本質を見極める姿勢が欠かせません。

地域貢献では、準備と現場での学びの双方が重要です。散策イベントの下見では、地域の民間薬や産業について市民の方から教わることもあります。また、就労体験ではラベンダーを用いたポプリ作りを提案し、企業支援では成分分析など専門性を活かしてきました。これらのことから、「人と関わる力」が新たな価値を生むことを実感しています。

AIの発展により情報入手は容易になりましたが、人と直接向き合うことでしか得られない気づきがあります。大学は多様な人と出会える貴重な場です。ぜひ多くの人と関わり、自身の可能性を広げてください。学び続ける姿勢が、やがて地域や社会への貢献につながることを願っています。

いまほり だいすけ
今堀 大輔

2018年 学部卒業
2022年 大学院博士課程修了
公衆衛生学分野

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部
生薬学・漢方分野田中宏幸研究室
助教



EVENT

2025年度卒業証書・学位記(学士)及び学位記(博士)授与式

／総務企画課

2025年度卒業証書・学位記(学士)及び学位記(博士)授与式を、2026年3月14日(土)午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。

当日は、薬学部 薬学科 337名に卒業証書・学位記(学士)、大学院 薬科学専攻博士後期課程1名、薬学専攻博士課程9名に博士(薬学)及び課程によらない博士1名に博士(薬科学)の学位記が修了者全員に赤路学長から授与されました。

マンドリン部による祝奏と合唱部(ユーベルコール)による学歌斉唱が行われ、式典は厳粛さの中にも温かみのある雰囲気になりました。

式終了後13時から、創立130周年記念館において、京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

また、これに併せて躬行館食堂では、本年卒業後30・50周年を迎えられた方々に加えて、コロナ禍によりご招待がかなわなかった平成3年度および昭和46年度卒業の方々をお迎えした合同記念祝賀会が開催され、多数の方々が旧交を温めました。



卒業証書・学位記(学士)及び学位記(博士)授与式



学位記授与の様子

EVENT

2026年度 入学宣誓式

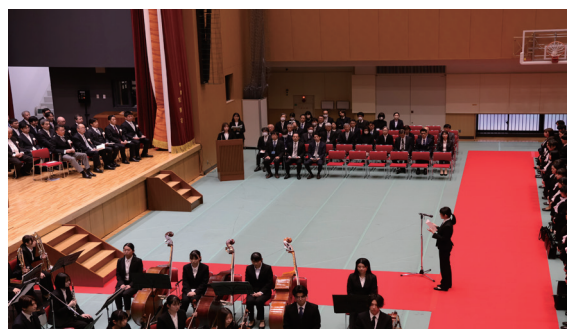
／総務企画課

2026年度入学宣誓式を、2026年4月2日(木)午前10時から創立130周年記念館で挙行了しました。2026年度新入生は、薬学部薬学科 376名、大学院薬学研究科薬学専攻博士課程8名です。

管弦楽部による祝奏と合唱部(ユーベルコール)による学歌斉唱が行われ、式典に華やかな彩りを添えました。



平田学長による式辞



学部新入生による宣誓

任命

学長 平田 收正
(2026.4.1～2030.3.31)

採用

副学長 特任教員 栄田 敏之
(2026.4.1～2028.3.31)

病態薬科学系臨床薬理学分野 教授 佐藤 洋美
(2026.4.1～2036.3.31)

生命薬科学系
微生物・感染制御学分野 講師 石丸 華子

医療薬科学系臨床薬学分野 助教 茂木 啓佑

統合薬科学研究施設シナジーラボ 助教 原田 考輝
(以上2026.4.1～2031.3.31)

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 田辺 和史
特命教授 西島 宏明
(以上2026.4.1～2027.3.31)

事務局研究推進課 事務員 玉垣 萌
(2026.4.1付)

昇任

医療薬科学系薬物動態学分野 教授 伊藤由佳子

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 教授 今西 孝至

事務局 事務局長 森 洋介
(前 事務局次長 兼 教務課長)

事務局次長(法人部門) 近藤 伸子
(前 事務局会計課長)

事務局次長(教学支援部門) 高野 江里
(前 事務局学生課長 兼 国際交流推進室長)

事務局入試課 入試課長 谷垣 朱美
(前 事務局庶務課 課長補佐)
(以上 2026.4.1付)

再任用

生命薬科学系病態生理学分野 助教 戸田 侑紀

薬学教育系学生実習支援センター 助教 岩崎 宏樹

薬学教育系学生実習支援センター 助手 徳山 友紀
(以上2026.4.1～2031.3.31)

任命

副学長 教授 加藤 伸一

副学長 特任教員 栄田 敏之

研究科長 教授 加藤 伸一

教務部長 教授 西口 工司

学生部長 教授 藤室 雅弘

進路支援部長 教授 高田 和幸

図書館長 教授 南部 寿則

教育研究総合センター所長 副学長 栄田 敏之

薬学教育研究センター長 教授 八巻 耕也

臨床薬学教育研究センター長 副学長 栄田 敏之

情報処理教育研究センター長 教授 武上 茂彦

学生実習支援センター長 教授 武上 茂彦

シナジーラボ長 教授 高田 和幸

共同利用機器センター長 教授 加藤 伸一

バイオサイエンス研究センター長 教授 秋葉 聡

薬用植物園長 教授 中村 誠宏

創薬科学フロンティア研究センター長 教授 大石 真也

生涯教育センター長 教授 村木 優一

国際交流センター長 教授 佐藤 毅
(以上2026.4.1～2028.3.31)

分析薬科学系長 教授 斎藤 博幸
(2026.4.1～2028.3.31)

兼務

事務局 事務局次長(法人部門) 近藤 伸子
(兼) 事務局経理財務課長

事務局次長(教学支援部門) 高野 江里
(兼) 事務局学生課長

事務局総務企画課 総務企画課長 栗田 晃
(兼) 事務局情報システム課 担当課長
(以上 2026.4.1付)

兼務解除

事務局 事務局次長(教学支援部門) 高野 江里
(兼) 事務局国際交流推進室長

事務局入試課 主査 北田 彩
(兼) 事務局国際交流推進室

事務局教務課 主査 佐々木雄太
(兼) 事務局国際交流推進室

事務局学生課 主査 太田 亮史
(兼) 事務局国際交流推進室
(以上 2026.3.31付)

配置換

事務局総務企画課	総務企画課長 栗田 晃 (前 事務局情報管理推進室)
事務局情報システム課	情報システム課長 山口 貴 (前 事務局企画・広報課)
事務局研究推進課	研究推進課長 加藤 浩 (前 事務局研究・産学連携推進室)
事務局教務課	教務課長 井本富美代 (前 事務局実務・生涯教育課)
事務局総務企画課	担当課長 渡辺 裕人 (前 事務局庶務課)
事務局経理財務課	担当課長 星野 展宏 (前 事務局調達検収室)
事務局教務課	担当課長 近藤 利彦 (前 事務局入試課)
事務局経理財務課	係長 佐原 和美 (前 事務局調達検収室)
事務局経理財務課	係長 夜船 宏哉 (前 事務局会計課)
事務局情報システム課	係長 北村 聡洋 (前 事務局情報管理推進室)
事務局学生課	係長 山川 晋平 (前 事務局研究・産学連携推進室)
事務局総務企画課	主査 前田 朋宏 (前 事務局庶務課)
事務局総務企画課	主査 坂口由美子 (前 事務局教務課)
事務局総務企画課	主査 石原 由季 (前 事務局庶務課)
事務局総務企画課	主査 林 貴志 (前 事務局学生課)
事務局情報システム課	主査 太田 周人 (前 事務局情報管理推進室)
事務局教務課	主査 杉本 明子 (前 事務局実務・生涯教育課)
事務局総務企画課	主事 仲達 依子 (前 事務局企画・広報課)
事務局総務企画課	主事 中西 弘樹 (前 事務局庶務課)
事務局経理財務課	主事 西村 浩子 (前 事務局調達検収室)
事務局経理財務課	主事 萩 範子 (前 事務局会計課)
事務局経理財務課	主事 清水 芳美 (前 事務局会計課)
事務局研究推進課	主事 永島真由実 (前 事務局研究・産学連携推進室)
事務局教務課	主事 中村 尚平 (前 事務局実務・生涯教育課)
事務局総務企画課	事務員 久保 亜未 (前 事務局企画・広報課)
事務局総務企画課	事務員 清水ほのか (前 事務局庶務課)
事務局経理財務課	事務員 富松 南月 (前 事務局会計課) (以上 2026.4.1付)

契約更新

薬学教育系教育研究総合センター		
臨床薬学教育研究センター		
	特命教授	五十嵐恵美子
	特命教授	遠藤 正憲
	特命教授	坂上 嘉浩
	特命教授	杉本 幸枝
	特命教授	谷口 昌彦
	特命教授	中村 直美
	特命教授	四方 敬介
	特命教授	石橋真理子
	特命教授	織邊 聡
	特命教授	和田 恭一
事務局研究推進課	契約専門職員	武野 薫
事務局教務課	契約専門職員	高島 一枝
附属施設薬用植物園	契約専門職員	平井 隆子 (2026.4.1付)

任期満了

学長 赤路 健一
(2026.3.31付)

退職

生命薬科学系病態生理学分野	教授	芦原 英司
医療薬科学系薬物動態学分野	教授	栄田 敏之
基礎科学系数学分野	教授	上野 嘉夫
薬学教育系教育研究総合センター		
薬学教育研究センター	教授	細井 信造
薬学教育系教育研究総合センター		
臨床薬学教育研究センター	教授	橋詰 勉
基礎科学系一般教育分野	准教授	坂本 尚志
薬学教育系教育研究総合センター		
薬学教育研究センター	講師	開 章宏
生命薬科学系細胞生物学分野	助教	祝迫 佑紀
生命薬科学系生化学分野	助教	幸 龍三郎
事務局	事務局長	松田 成史 (以上 2026.3.31付)

契約期間満了

薬学教育系教育研究総合センター		
臨床薬学教育研究センター		
	特命教授	岡田 博
	特命教授	南橋 薫
事務局庶務課	契約専門職員	坂口 義美 (以上 2026.3.31付)

News | 2026年度 試験日程について

／教務課

2026年度試験日程については下表のとおりです。

スケジュールは変更となる可能性があります。最新情報はmanabaにてお知らせします。

試験	試験期間	受験手続日	合格発表	
2026年				
1～4,6年次生 前期試験	7月21日(火)～7月30日(木)	－	8月6日(木)Webによる公開	前期終了時の 成績通知書は 10月下旬に保証人へ 送付予定
2023年度以前入学の 2～4年次生 前年次科目再試験	8月20日(木)～8月25日(火)	4月10日(金)～4月12日(日)	10月1日(木)Webによる公開	
6年次生 前期再試験Ⅰ	8月20日(木)～8月25日(火)	8月6日(木)～8月13日(木)	9月8日(火)Webによる公開	
1～4年次生 前期科目再試験	8月27日(木)～9月3日(木)	8月6日(木)～8月13日(木)	10月1日(木)Webによる公開	
6年次生 前期再試験Ⅱ	9月24日(木)、9月25日(金)	9月8日(火)～9月10日(木)	10月1日(木)Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験	12月12日(土)・12月13日(日)	－	発表方法についてはmanabaで通知します	
2027年				
6年次生 アドバンスト薬学本試験	1月7日(木)、1月8日(金)	－	1月14日(木)Webによる公開	後期終了時の 成績通知書は 4月中旬～下旬に 保証人へ送付予定
4年次生 後期試験	1月7日(木)～1月12日(火)	－	1月19日(火)Webによる公開	
1～3年次生 後期試験	1月14日(木)～1月22日(金)	－	2月2日(火)Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 CBT本試験	1月14日(木)・1月15日(金) ※教務課より指定の いずれか1日を受験	－	発表方法についてはmanabaで通知します	
6年次生 アドバンスト薬学再試験	1月25日(月)、1月26日(火)	1月14(木)～1月15(金)	2月9日(火) Webによる公開	後期終了時の 成績通知書は 4月中旬～下旬に 保証人へ送付予定
4年次生 後期科目再試験Ⅰ	1月28日(木)～2月1日(月)	1月19日(火)～1月22日(金)	2月10日(水) Webによる公開	
1～3年次生 後期科目再試験	2月17日(水)～2月26日(金) ※2月19日(金)を除く	2月2日(火)～2月8日(月)	3月11日(木) Webによる公開	
4年次生 前期・後期科目再試験Ⅱ	2月17日(水)～2月26日(金) ※2月19日(金)を除く	前期科目 1月19日(火)～1月22日(金) 後期科目 2月10日(水)～2月14日(日)	3月11日(木) Webによる公開	
4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験	3月2日(火)予定	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します		
4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験	3月4日(木)予定	発表・手続き方法についてはmanabaで通知します		

京薬生はどんな本を読んでいる？ ―2025年度 年間貸出ランキング―

昨年1年間の貸出数は5,155冊でしたが、そのなかでも貸出回数が多かった図書をランキング形式でご紹介します。その年によって傾向は変わるものの、2025年度は薬剤師国家試験対策に役立つ図書の需要が高まり、根強い人気を誇る『薬ゼミの要点集』シリーズが上位を占め、第1位には『薬ゼミの要点集 病態・薬物治療（薬学ゼミナール）』が輝きました。その他にも『公式TOEIC Listening & Reading 問題集』（ETS著／国際ビジネスコミュニケーション協会）や体内での薬のはたらきがマンガでわかる『はたらく細胞 おくすり』（割田コマ原作・構成、九似良漫画／講談社）も貸出が増えました。図書館では医学・薬学に関する専門図書だけでなく、通学の合間に気軽に読める文芸書や教養をより深めるための図書等もたくさん取り揃えています。ランキングに並んだラインナップを見て、こんな本も図書館にあるんだ！と新たな発見につながることを期待しつつ、ぜひ図書館に足を運んでみてください。

順位	書名	著者名
1位	病態・薬物治療（薬ゼミの要点集:6）	薬学ゼミナール編
2位	薬理（薬ゼミの要点集:5）	薬学ゼミナール編
	公式TOEIC listening & reading 問題集 11	ETS著
3位	化学（薬ゼミの要点集:2）	薬学ゼミナール編
	実務（薬ゼミの要点集:9）	薬学ゼミナール編
4位	生物（薬ゼミの要点集:3）	薬学ゼミナール編
5位	物理系薬学／化学系薬学／生物系薬学 改訂第8版（コアカリ重点ポイント集:vol. 1）	薬学ゼミナール編
6位	はたらく細胞おくすり 1（シリウスKC）	割田コマ原作・構成／九似良漫画
	アルジャーノンに花束を 改訂版	ダニエル・キイス 著／小尾英佐訳
	変な家	雨穴著
	薬剤師国家試験：回数別既出問題集 第106回	薬学ゼミナール編
	医療薬学 改訂第8版（コアカリ重点ポイント集:vol. 2）	薬学ゼミナール編
	薬剤師国家試験：回数別既出問題集 第107回	薬学ゼミナール編
	物理（薬ゼミの要点集:1）	薬学ゼミナール編
	薬剤（薬ゼミの要点集:7）	薬学ゼミナール編
	TOEIC L&R test 出る問題超特急金の読解：新形式対応	TEX加藤著

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



私の薦める、私の一冊



『クマにあったら どうするか —アイヌ民族最後の 狩人 姉崎等』

姉崎等 著
片山龍峯 聞き書き
畠山泰英 編
ちくま文庫 (2014年)

薬化学分野
助教 喜屋武 龍二

近年、クマの出没や、それに伴う人身・農作物被害に関する報道が世間を賑わせています。特に2023年以降は全国的に被害が深刻化し、2025年には過去最多の人身被害が報告されました。京都市内においても目撃件数は増加傾向にあり、数十件規模から80件前後へと増えた年も確認されています。かつてクマは東北地方や山間地域に限られる印象が強かったものの、近年は市街地近郊に姿を現す、いわゆる「都市型」の個体も増え、人とクマの距離は確実に縮まりつつあります。

そこで、薬化学分野の本棚にあった、可愛らしいクマの親子の表紙が印象的な本書を紹介したいと思います。本書はクマに関するハウツー本ではなく、アイヌ民族の血を引き、狩人として65年にわたりおよそ60頭ものクマをほぼ単独で狩ってきた姉崎等氏の実体験を、聞き手である片山龍峯氏がインタビュー形式でまとめたものです。そのため文章は堅苦しさがなく、小気味よいテンポで読み進めることができ、随所にアイヌ的な価値観が織り込まれながら話が展開していきます。

本書を通じて特に印象に残るのは、クマを単なる危険動物としてではなく、「同じ世界に生きる存在」として向き合う姿勢です。姉崎氏の語りには、自然の恵みによって生かされているというアイヌ的な価値観が色濃く表れており、クマは恐れるべき相手であると同時に、敬意をもって接すべき存在（カムイ）であるということがよく伝わってきます。そして、人間の側の振る舞いこそがクマとの関係を形づくるのだと繰り返し語られます。だからこそ本書では、遭遇時の対処法以上に、出会わないための行動や、自然への向き合い方が重視されています。クマの問題が身近になった現在において、本書は単なる実用書にとどまらず、人と自然の関係を改めて考えさせてくれる一冊だと感じました。

さて、最後にクイズです。

【Q. あなたがクマに遭遇したとき、どのように対処するでしょうか。①死んだふりをする ②木に登る ③リュックを置いて逃げる ④腰を抜かす】——この四つの選択肢の中で、正しい行動を選べますか。



『俺たちの箱根 駅伝 上・下』

池井戸潤 著
文藝春秋 (2024年)

研究推進課
ながしま まゆみ
永島 真由実

スポーツの経験も観戦にもほとんど興味がなく、特に走ることが嫌いな私がなぜこの本を手にとったのか、それは以前に読んだ池井戸潤さんの本が面白かったからです。

年明けの恒例行事としてニュースでも取り上げられる箱根駅伝は皆さんご存じかと思います。マニアの方も多くおられるので駅伝の何が魅力かをド素人の私がここで語るようなことはしません。正月の2日と3日、寒風の中ただ人が走る姿を映すテレビを、特に面白さもわからず「強いな、この大学は。今年も1位かな。」などと確認する程度の視聴者でした。「で、関東学生連合って何？」と思いながら。

シード権もなく、予選会でも10位以内に入れず出場権を得られなかった大学から集められた16人のランナーは、関東学生連合として出場する機会を得ますが、本選での彼らの成績は記録として残らず、順位もつきません。いったい何のために走るのか、モチベーションを保つのが難しい中、チームとは呼べないような状態で練習を開始します。

彼らをまとめるのは競技から足を洗い一流企業のビジネスマンとなっていた伝説のランナー、甲斐真人。甲斐の監督としての資質に疑問を抱きながらも「本選3位以上」という、あり得ない、でも魅力的な目標に向かって選手たちの日々は少しずつ熱を帯びていきます。

駅伝はトラック競技のタイムが早ければ勝てるものではなく、甲斐監督曰く「メンタルが7割」。思うように脚が前に出ない時。追い抜いていくライバルの背中を見ながら勝てない、無理だ、と絶望で胸がいっぱいになった時。「空を見てみる。」「一緒に走ろう。」と声をかけてくれる人がいるって心強いと思います。駅伝だけでなく、人生において。

下巻では箱根路をランナーとなって走っているような感覚になれます。また、生中継をしているテレビ局のスタッフ達の気の遠くなる準備や緊張感も描かれており、来年の中継が楽しみになります。まだ読んでいない方は是非。

学生相談室 だより

青年期の心理的課題

臨床心理士 上野 みな子

／学生課

思春期・青年期は、身体も大きく変化する時期であるとともに、こころの在り方も大きく揺れ動きながら成長していく時期です。大学生になると、関わる人が増え、活動範囲が広がり、自分自身について、それまでよりも、より客観的にかつ比較視点で捉えることが増えると思います。

そういった世界の広がりや周囲からの刺激を、自分の視野を広げてくれるもの、成長させてくれるものとして前向きに受け取り、情緒的にも安定して過ごすことができる、学生生活はかなりスムーズです。しかしながら、いつもそのように前向きでいられるかというと、そうではない人も少なくないでしょう。

例えば、「自分は比較対象より劣っているという感覚、新しい世界との出会いへの不安、違う価値観への拒絶、自分が何者かわからなくなっているような、立っている場所を揺るがされるような感覚」といった、自分自身のこころに生起するネガティブで苦しい感覚もまた、大学生時期には起こりやすいものです。決して珍しいことではありません。アイデンティティと呼ばれる、自分軸の感覚が揺らいでしまっている状況です。青年期のこころの発達として重要なテーマとなるのが、このアイデンティティの確立です。過去、現在、未来と自分が連続してつながっている感覚を持つことができ、自分はこんな人

であると理解できていること、そして、自分が何を大切にし、どのように生きたいのかの答えが見えてくることが青年期における重要な心理的課題となります。表面上は変わらないように見えても、内側では大きな変化を経験していきます。見えないこころの痛みや葛藤や苦しみを抱えつつ、この青年期特有の揺れ動く時期を経て大人になっていくわけです。

人と関わったりつながったりするためのツールが大きく変化している現代ですが、人のこころの発達成長といった点においては、今も昔も変わらない部分はあるでしょう。若者たちが、自身のアイデンティティを求めて悩み、試行錯誤し、自らの人生のかじ取りをしながら方向性を決め、前へと進んでいくという様子は時代を超えて共通しています。そして、実はその際に役立つのがカウンセリングです。自分を客観視するために、自分という輪郭をはっきりさせるために、自分が根底から揺るがされるようなこころの苦しさに向き合うために、第三者に話し、整理し、ともに考えることで、苦しい思いが少し軽くなったり、先につながるヒントを見いだせたりということがあってもいいかもしれません。もし、興味がある方がいれば、ぜひお気軽にお問い合わせください。ご利用お待ちしております。

学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。

相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

相談申込み・問い合わせ先

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

学生相談室 育心館 4階

■開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15

■電話：(075)595-4672（建部） / (075)595-4686（上野）

■学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp 申込フォーム：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/student.html#/>



News | 2027年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程の入学選考概要

／入試課

募集人員		薬学専攻 博士課程 (4 年制)	備 考
募集分野等		(一般入試、社会人入試) 10 名 (募集分野等) 24 分野等	
出願資格		(1)6 年制薬学部を卒業した者 (2027 年 3 月末日までに卒業見込者を含む) (2) 大学 (4 年制学部) を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において 2 年以上の実務・研究経験を有している者 (本学における研究生等を含む) で、本学大学院において、6 年制薬学部を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 (3) 修士の学位を有する者 (2027 年 3 月末日までに当該学位取得見込者を含む) (4) 外国において、学校教育における所定の課程を修了した者で、本学大学院において、6 年制薬学部を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 (5) 外国において、修士の学位に相当する学位を有する者 (2027 年 3 月末日までに当該学位取得見込者を含む) (6) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、前第 1 号から第 5 号の基準と同等以上の学力があると認めた者 ※出願資格 (2)、(4)、(6) の資格で出願を希望する者は、出願資格の認定審査を行う	< 薬学専攻 > 募集分野等 薬化学分野、薬品製造学分野、薬品化学分野、生薬学分野、薬品分析学分野、薬品物理化学分野、衛生化学分野、公衆衛生学分野、微生物・感染制御学分野、細胞生物学分野、生化学分野、病態生理学分野、病態生化学分野、薬物治療学分野、臨床薬理学分野、薬理学分野、分子腫瘍学分野、薬剤学分野、薬物動態学分野、臨床薬学分野、臨床薬剤疫学分野、臨床薬学教育研究センター、シナジーラボ、放射性同位元素研究センター
主な出願書類		(1) 入学願書 (2) 成績証明書^{※1} (3) 卒業論文及び卒業論文の要旨 (英文可)^{※2} (4) 志願者名票・受験票 (5) 卒業 (見込) ・修了 (見込) 証明書^{※1} (6) 出願資格 (4・5) の者は住民票^{※3}	※1 本学卒業見込者を除く ※2 卒業見込者は卒業研究の概要 (2,000 字以内) 1 部 (英文可) ※3 学術交流協定大学の卒業 (見込) 者は大学長等の正式な推薦状で代用可能 (任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集) 2026 年 7 月 1 日 (水) ～ 2026 年 7 月 10 日 (金) [必着] (冬季募集) 2027 年 1 月 6 日 (水) ～ 2027 年 1 月 13 日 (水) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2026 年 8 月 21 日 (金) (冬季募集) 2027 年 1 月 22 日 (金)	
	合格発表日	(夏季募集) 2026 年 8 月 27 日 (木) (冬季募集) 2027 年 1 月 25 日 (月)	
	入学手続期限	2027 年 3 月 4 日 (木) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限、入学手続書類提出期限	
選考	面接試問	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

令和8(2026)年度科学研究費助成事業 採択状況

／研究科長 加藤 伸一

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む。）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されており、個人で申請する研究や複数の研究者で申請する研究があります。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載し、分担者として共同研究をしている場合は含まれていません。令和8年度は、新規で34件申請して11件が採択されました（新規採択率32.4%）。合計採択件数は42件、令和8年度交付予定総額は85,020千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）及び研究活動スタート支援の新規採択分は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・継続
基盤研究 (B)	大石 真也	薬品化学分野	26K02153	鏡像小型抗体の創製基盤の確立と創薬モデルへの応用	5,460	新規
基盤研究 (B)	中村 誠宏	生薬学分野	23K27333	薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開	3,510	継続
基盤研究 (B)	長尾 耕治郎	薬品物理化学分野	24K01685	リン脂質リモデリングを介した細胞環境変化への適応機構	4,160	継続
基盤研究 (B)	古田 巧	薬化学分野	24K02158	カルコゲン結合による触媒構造制御法の確立と選択的分子変換への展開	3,770	継続
基盤研究 (B)	異島 優	薬剤学分野	24K02201	各アルブミン相互作用タンパク質の特性を活用した革新的アルブミン DDS キャリアの開発	8,580	継続
基盤研究 (B)	中山 祐治	生化学分野	24K02891	がん細胞に特徴的な細胞分裂におけるコレステロール合成経路の意義解明	5,070	継続
基盤研究 (C)	服部 恭尚	共同利用機器センター	26K08657	ジペプチド型阻害剤を用いた Wnt シグナル伝達経路の標的分子探索ならびに高活性化	2,210	新規
基盤研究 (C)	高山 健太郎	衛生化学分野	26K09596	1型ニューロメジンU受容体の特性に立脚した抗炎症及び抗肥満創薬の基盤構築	1,430	新規
基盤研究 (C)	田中 智之	薬理学分野	26K09638	慢性蕁麻疹治療薬の標的分子 MRGPRX2 およびそのマウスオルソログの解析	1,560	新規
基盤研究 (C)	内藤 行喜	代謝分析学分野	26K09662	糖化反応中間体と AGEs 架橋形成に着目した亜鉛錯体による糖化ストレス制御戦略の構築	1,560	新規
基盤研究 (C)	河下 映里	病態生化学分野	26K09677	新生児低酸素性虚血性脳症における脳内環境の制御による統合的治療戦略の確立	1,430	新規
基盤研究 (C)	八尋 錦之助	微生物・感染制御学分野	26K10035	パラダイム転換に資する EHEC 治療基盤構築	1,430	新規
基盤研究 (C)	河嶋 秀和	放射性同位元素研究センター	26K10645	骨格筋の老廃物除去機能に着目したサルコペニア症状改善戦略の探索	1,690	新規
基盤研究 (C)	小原 幸	臨床薬理学分野	26K11003	心筋ミトコンドリア細胞外放出による心不全時心骨格筋連関の解明と新規骨格筋治療戦略	1,690	新規
基盤研究 (C)	岸野 良治	一般教育分野	22K00065	空海の遺志を継ぐ学僧たち：近世後期の「根本説一切有部律」宣揚運動	260	継続
基盤研究 (C)	戸田 侑紀	病態生理学分野	23K06620	肺前転移ニッチにおける乳酸アシドーシス発症因子の同定	910	継続
基盤研究 (C)	扇田 隆司	共同利用機器センター	24K09756	新規数値モデルを用いたパートナー分子による α シヌクレイン凝集核形成制御機構の解明	1,430	継続
基盤研究 (C)	武上 茂彦	薬品分析学分野	24K09770	多粒子結合イオン液体ナノ粒子ー電気化学発光イムノアッセイの2成分同時測定法の開発	1,690	継続
基盤研究 (C)	伊藤 由佳子	薬物動態学分野	24K09972	血中循環腫瘍細胞の臨床実装による腫瘍集学的治療アルゴリズム構築	780	継続
基盤研究 (C)	安井 裕之	代謝分析学分野	24K10044	がん間質部位占有能をもつ金-硫黄錯体をアジュバントにした白金系抗がん剤の作用増強	910	継続

基盤研究 (C)	河渕 真治	薬物動態学分野	25K00288	膀胱予後予測マーカーとファーマコメトリクスに基づく化学療法の個別化	1,820	継続
基盤研究 (C)	朝比奈 裕子	一般教育分野	25K08932	半合成受容体を用いたリガンド結合に伴う膜近傍部位の構造解析	1,560	継続
基盤研究 (C)	南部 寿則	薬品製造学分野	25K09883	スピロシクロプロバンの環拡大反応を用いるシクロブタン骨格の新規構築法の開発	1,560	継続
基盤研究 (C)	友原 啓介	薬品製造学分野	25K09905	触媒的アンモニア-Ugi 反応の開発と非天然型ペプチドの自在合成	1,430	継続
基盤研究 (C)	斎藤 博幸	薬品物理化学分野	25K09932	タンパク質の自己凝集・アミロイド線維化を促進する体内分子ネットワークの解明と制御	1,430	継続
基盤研究 (C)	林 周作	薬物治療学分野	25K09991	未病遺伝子 Wars の炎症性腸疾患における病態生理学的意義	1,430	継続
基盤研究 (C)	安田 浩之	薬物治療学分野	25K10008	PAD2/PAD4 を介するシトルリン化作用の消化管炎症における機能解析	1,430	継続
基盤研究 (C)	松本 崇宏	公衆衛生学分野	25K10025	抗がん剤耐性化因子の核移行を制御できる天然由来医薬品シーズの創出	1,690	継続
基盤研究 (C)	太田 智絵	生薬学分野	25K10040	植物酵素による非天然型化合物群構築とオートファジーをターゲットとした抗がん剤開発	1,430	継続
基盤研究 (C)	細木 誠之	病態生理学分野	25K10057	気道上皮前駆細胞の細胞老化に対する超硫黄分子を標的とした革新的治療法の開発	780	継続
基盤研究 (C)	前田 仁志	薬剤学分野	25K10068	リンパ節マクロファージの CD169 を標的とした革新的がん免疫療法の開発	1,560	継続
基盤研究 (C)	村木 優一	臨床薬剤疫学分野	25K10078	大規模保険請求情報を用いた薬剤耐性菌対策における新規指標の探索	1,170	継続
基盤研究 (C)	飯居 宏美	分子腫瘍学分野	25K10100	GGCT 阻害剤と新規ミトコンドリア阻害薬を併用するがん幹細胞阻害戦略の確立	1,430	継続
基盤研究 (C)	佐藤 洋美	臨床薬理学分野	25K12307	転移性脳腫瘍に接触するアストロサイトが形成する免疫抑制機構の解明	1,560	継続
挑戦的研究 (萌芽)	大石 真也	薬品化学分野	24K22415	鏡像型機能性タンパク質の医薬応用を目指した基盤技術の開発	2,080	継続
挑戦的研究 (萌芽)	異島 優	薬剤学分野	25K22671	『超硫黄分子』を基軸とした乾癬の分子病態解明と新規治療法の開発	2,730	継続
若手研究	喜屋武 龍二	薬化学分野	26K18448	カルボニル触媒反応の反応様式拡張を基盤とした新規非天然型アミノ酸合成法の開発	2,340	新規
若手研究	岩本 直也	薬品化学分野	26K18449	N-メチルアミノ酸の導入によるタンパク質の分子機能・分子特性制御の実証	2,210	新規
若手研究	木口 裕貴	薬品分析学分野	24K18265	次世代診断薬の創出を支援するハイスループット高親和力変異抗体探索システムの開発	1,170	継続
若手研究	西藤 有希奈	代謝分析学分野	24K18273	亜鉛輸送体の発現と局在制御を介した効率的な亜鉛吸収機構の解明と応用展開	1,430	継続
若手研究	森戸 克弥	衛生化学分野	24K18292	リゾリン脂質メディエーター分解促進によるうつ病発症機構の解明と新薬開発への応用	1,690	継続
研究活動スタート支援	岩本 直也	薬品化学分野	25K23783	タンパク質化学合成を用いた架橋型 Ig ドメインタンパク質の創製と分子特性評価	1,560	継続

REPORT

2025年度実践薬学コース 実習報告発表会

／教務課

2026年5月14日(木)に総合薬学研究B 実践薬学コースにおいて実施した実習の報告発表会を開催しました。実習に参加した地域・在宅医療ユニット、先端薬剤師ユニット併せて10名の学生がQ11-13セミナー室でポスター発表を行い、学長を含め、61名の教員や在学生在が参加しました。学生は自身の設定したテーマと、実習を行う中で得た考察について説明し、質疑応答や活発な議論が行われました。



報告会の様子

【総合薬学研究B 実践薬学コース 地域・在宅医療ユニット】

薬化学分野1名、薬理学分野1名、健康科学分野1名、薬品化学分野1名

【総合薬学研究B 実践薬学コース 先端薬剤師ユニット】

薬品化学分野2名、病態生化学分野2名、薬理学分野2名、衛生化学分野1名



発表者の皆さん

受賞・掲載

薬化学分野の喜屋武 龍二助教が令和7年度有機合成化学協会中外製薬研究企画賞を受賞しました

2026年2月17日(火)に、薬化学分野の喜屋武 龍二助教が令和7年度有機合成化学協会中外製薬研究企画賞を受賞しました。

受賞：薬化学分野 助教 喜屋武 龍二
演題：カルボニル触媒反応の反応点拡張を基盤とした新規非天然型アミノ酸含有ペプチド合成法の開発



薬品製造学分野が発表した論文がSYNFACTSにおいてHighlightとして紹介されました。

タイトル：N-to-C Peptide Elongation by Ammonia-Ugi Reaction: Synthesis of Potent Self-Assembling Elastin-Like Short Peptides
著者名：Keisuke Tomohara, Naoki Tanaka, Yukino Kotake, Miwa Ushiro, Misato Adachi, Hikaru Kimura, Hisanori Nambu, Takeru Nose.
掲載号巻：Synfacts 2026; 22(04): 389

論文掲載サイト：<https://www.thieme-connect.com/products/ejournals/html/10.1055/a-2806-7756>

日本薬学会第146年会において、本学の学生18名が学生優秀発表賞を受賞しました

2026年3月26日(木)～29日(日)に開催された「日本薬学会第146年会」において、本学の学生18名が学生優秀発表賞を受賞しました。

【学生優秀発表賞(口頭発表の部)】

受賞者：薬品化学分野 博士課程2年次生 佐藤 志乃
演 題：構造・機能解析に向けた小型ルンフェラゼpicALucの化学合成と機能評価
演 者：○佐藤 志乃、中橋 花菜、岩本 直也、大石 真也

受賞者：臨床腫瘍学分野 博士課程2年次生 森 昌也
演 題：GGCTとxCTの二重阻害により抗酸化防御機構を破綻させ膠芽腫細胞にフェロトシスを誘導する新規治療戦略
演 者：○森 昌也、曾根 夕日、二瓶 七海、野瀬 梢、藤田 貢、松本 崇宏、飯居 宏美、中田 晋

受賞者：生化学分野 6年次生 中村 歩加
演 題：DNA損傷時にEphA2阻害はp21依存的な細胞分裂回避を誘導する
演 者：○中村 歩加、田中 潤奈、幸 龍三郎、中山 祐治

受賞者：薬品化学分野 5年次生 田上 祐衣
演 題：末端β-ストランド間を架橋したImmunoglobulinドメインタンパク質の合成と機能評価
演 者：○田上 祐衣、大野 紗弥、岩本 直也、大石 真也

【学生優秀発表賞(ポスター発表の部)】

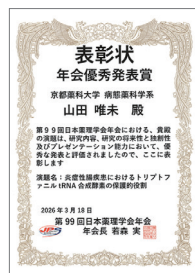
受賞者：細胞生物学分野 4年次生 金巻 沙菜
演 題：HSV-1感染細胞から神経細胞障害活性を持つアミロイドβ凝集物が産生される。
演 者：○金巻 沙菜¹、祝迫 佑紀¹、須賀 圭²、中曾 一裕³、藤室 雅弘¹ (¹京都薬大、²杏林大医、³鳥取大医)

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 鈴木 音秋
演 題：ピリジニウム型フラレン誘導体の原発性滲出性リンパ腫(PEL)に対する増殖抑制の作用機序解析
演 者：○鈴木 音秋¹、河瀬 順¹、聶城 実沙¹、門田 彩乃¹、森口 美里¹、渡部 匡史¹、中村 成夫²、安野 拓実³、大江 知之³、増野 匡彦³、藤室 雅弘¹ (¹京都薬大、²日本医大、³慶應大薬)

第99回日本薬理学会年会において薬物治療学分野の山田 唯未さんが年会優秀発表賞を受賞しました。

2026年3月16日(月)に開催された第99回日本薬理学会年会において、薬物治療学分野の山田 唯未さんが年会優秀発表賞を受賞しました。

受賞：薬物治療学分野 5年次生 山田 唯未
演題：炎症性腸疾患におけるトリプトファン-ルtRNA合成合成酵素の保護的役割
演者：山田 唯未、林 周作、凌 悠真、八田 花音、安田 浩之、加藤 伸一



日本薬学会において臨床薬剤疫学分野の村木 優一教授が2026年佐藤記念医療貢献薬剤師賞を受賞しました

2026年3月26日(木)に開催された日本薬学会において、臨床薬剤疫学分野の村木 優一教授が2026年佐藤記念医療貢献薬剤師賞を受賞しました。

受賞：臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一
演題：臨床実践に基づく個別化治療とビッグデータ解析による感染症治療の最適化
演者：村木 優一



受賞者：微生物・感染制御学分野 5年次生 大島 侑奈
演 題：In vivo イメージングを用いた腸管出血性大腸菌O157のマウス腸管定着動態の可視化
演 者：○大島 侑奈¹、山口 大貴²、石川 美穂¹、坂本 雅¹、寺島 拓未¹、八尋 錦之助¹（¹京都薬大、²大阪大産研）

受賞者：微生物・感染制御学分野 5年次生 増田 渚乃
演 題：SubA毒素発現制御機構解明のためのレポーターアッセイ系の構築
演 者：○増田 渚乃¹、山下 沙織¹、飯塚 莉緒¹、塚本 健太郎²、奥田 光紀¹、八尋 錦之助¹（¹京都薬大、²大阪大微研）

受賞者：生薬学分野 博士課程1年次生 荒木 康佑
演 題：カンレンボク（*Camptotheca acuminata*）花部の発達段階に着目したカンプトテシン含有量および遺伝子発現の解析研究
演 者：○荒木 康佑、月岡 淳子、太田 智絵、中村 誠宏

受賞者：薬品物理化学分野 5年次生 上田 麻衣
演 題：ショウジョウバエSPLのリン脂質合成における役割の解析
演 者：○上田 麻衣、宮田 友花、斎藤 博幸、長尾 耕治郎

受賞者：細胞生物学分野 4年次生 池田 宝
演 題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス(KSHV)遺伝子ORF67とORF69の機能解析
演 者：○池田 宝、祝迫 佑紀、橘 明日香、中森 悠佳、藤室 雅弘

受賞者：シナジーラボ 博士課程2年次生 吉川 勇人
演 題：*Trichoderma pluripenicillatum*代謝産物によるA β 凝集抑制作用およびコリン作動性神経保護作用
演 者：○吉川 勇人¹、松本 崇宏²、吉田 依未¹、高田 和幸¹（京都薬科大学¹シナジーラボ、²公衆衛生学分野）

受賞者：生薬学分野 5年次生 矢川 寛菜
演 題：ネムロコウホネおよびオオバゲッキツ由来成分の併用によるヒト神経膠芽腫 U251-MG 細胞に対する増殖抑制作用の評価研究
演 者：○矢川 寛菜、太田 智絵、中村 誠宏

受賞者：生薬学分野 博士課程1年次生 濱井 美歩
演 題：タンジン*Salvia miltiorrhiza* 内生真菌代謝産物によるタンジン細胞のcryptotanshinone産生促進作用
演 者：○濱井 美歩¹、月岡 淳子²、太田 智絵¹、中村 誠宏¹、松本 崇宏³（京都薬科大学¹生薬学分野、²薬用植物園、³公衆衛生学分野）

受賞者：薬物治療学分野 5年次生 美田 千慧
演 題：炎症性腸疾患におけるI型インターフェロン誘導因子IFIT 2の役割
演 者：○美田 千慧、今泉 公佑、林 周作、斉藤 美知子、安田 浩之、加藤 伸一

受賞者：細胞生物学分野 4年次生 松崎 さやか
演 題：チロシナーゼ阻害剤によるメラノーマ細胞運動能への影響
演 者：○松崎 さやか、本田 祥恵、藤室 雅弘、関根 勇一

受賞者：生薬学分野 5年次生 矢島 歌織
演 題：植物由来スチルベン類を基盤とした膠芽腫がん幹細胞に対する駆逐作用を有する芳香族化合物の合成研究
演 者：○矢島 歌織、山村 来輝、高橋 柚月、太田 智絵、中村 誠宏

受賞者：生薬学分野 5年次生 岡本 莉奈
演 題：薬用植物オオバングジュツ由来成分panduratin Aの神経膠芽腫U251-MG由来がん幹細胞に対する活性評価と構造活性相関
演 者：○岡本 莉奈、藤川 遼太、吉谷 優奈、萬谷 里奈、太田 智絵、中村 誠宏

新校舎「飛翔館」について薬事日報に掲載されました

新校舎「飛翔館」について薬事日報（2026年3月11日）に掲載されました。

本学大学院生の共同研究について薬事日報に掲載されました

臨床薬学分野博士課程3年次生の林 八恵子さんと近江八幡市立総合医療センターの共同研究について薬事日報（2026年5月15日）に掲載されました。

新聞記事の一覧についてはこちら

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/journal/publish.html>



＼ 読者アンケート実施中 /

読者アンケートを実施しています。
本誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。

所要時間：2分程度

回答期限：2026年12月31日（木）

<https://forms.cloud.microsoft/r/ZXS6txa8TR>



京都薬科大学 寄付金芳名録

下記の方々からご寄付をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊敬称略、芳名のみ掲載しております。

＊100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄付者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2026年3月～2026年5月にご寄付をお寄せいただいた方々

卒業生・同期会等（五十音順）

青山 昭策	小川 晴男	高美 時郎	藤田 恵子
浅見 正子	小山 泰子	武野 薫	細井 信造
糸井 朋子	坂本美智恵	田村 源	松原 睦子
大内美和子	坂本 智美	土肥 正路	村田 保
大嶋美奈子	塩崎 倫子	中井 洋一	山根 浩美
大原 松雄	進藤 広彦	中森 省吾	(株)平民堂薬局
岡庭 正格	杉本 幸枝	成田 喜弘	
岡本 和宏	高田 江里	原 智恵子	

卒業30周年記念募金（平成8年卒業生）

一丸 勝彦 高橋 榮

企業・団体・一般（五十音順）

武田 美一 松田 成史
中澤 兼一 (株)茨木春草園
松田 敏 ファルメディコ(株)
 狭間 研至

法人役員・評議員・職員等（五十音順）

大崎 祥子（理事）	田中 徳雄（理事）	村木 優一（教授）
串田 ゆか（理事）	谷口 隆之（名誉教授）	森 洋介（事務局長）
高田 和幸（教授）	近田 厚子（理事）	安井 裕之（教授）

（2026年5月31日現在）

●ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。

引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/about/donation.html>



《お詫び》

「KPUNews4月号（No.225）」の24ページに掲載いたしました京都薬科大学奨学寄付金芳名録の欄にて、掲載に誤りがありました。

【誤】＜卒業生・同期会等＞岡本 光弘 【正】＜法人役員・評議員・職員等＞岡本 光弘（評議員）

【誤】＜卒業生・同期会等＞西野 武志 【正】＜法人役員・評議員・職員等＞西野 武志（名誉教授）

関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。

